馬　耳　東　風

幾百の　黒毛和牛に　声かけて
　　廻るたのしさ　明日も来るよと
　　愚老の戯言

今朝もまた　黒毛和牛が　出迎えて
　　声に出さねど　今生の友　　老残

首都圏の新興住宅が立ち並び始めた国道バイパス脇の牧場入り口に置かれた「関係者以外立ち入り禁止」の老残さん手作りの看板に添えられた歌だ．牧場名と一緒にエリート牛の合宿所と記してある．健康づくりで余暇時間に自転車でゆっくりめぐりを始めたのだろう，偶然にも隣町の都市化地域で牛の牧場を見つけた．なんと沢山の牛がいるではないか．老残さんはヘルメットをちゃんとかぶり，東京側の隣町から自転車でやってくる．牧場入り口は，東京を往来する国道バイパスで自動車の通行量は極めて多く，よほど気をつけないと車道の通行は危なくてしょうがない．歩道が比較的広く上り坂は自転車を押した方が楽だ．かなり前に定年を過ぎたのか，今はまったく自由の身のようだ．傘寿を迎えるだろう年齢にめげず，今日も愛用の自転車にまたがって，えっちらおっちら漕いでくる．牧場主と年齢も近く家族とも気さくに会話して牛を眺めて帰るという．パドックで群れる牛も静かに穏やかな目を向けて朝餌の後の反芻時間だ．やって来たいつもの老残さんをじっと見ている．座っているのも立ち上がる気配はない．全くの自然体で反芻しながら顔を向けている．喉の奥で牛が向けた顔を見ながら声にならない「おはよう」を言う．牛たちも鳴かない．牛に魅せられた時間がうれしい．まるで竹馬の友に逢いながら悠々と過ぎる時間を楽しむようだ．出身がどこなのかも知らない．きっと眼をつぶると懐かしい風景や匂いが漂ってくる故郷があるに違いない．牛小屋を宿舎と表現し，飼われる頭数を幾百と歌いこんで，現代化した鉄骨牛舎の姿に忠実だ．忙しい牧場の機械の音や牛の鳴き声も読み込まれていない．朝餌を食べた後ののんびりした牛の満足げな雰囲気が絶妙である．時には群れながら近くに寄ってくるのもいる．作者はこの時間が最も至福で好きなのだ．和歌の旋律で詠んでいるが，どことなく万葉調？　五行歌？　の風情を感じませんか．

飼養衛生管理基準なるものができて管理区域を示す看板が必要になり，「立ち入り禁止」の無粋な看板が目立ち始めた．もちろん必要なことは十分承知しているが，老残さんの牛との接点が，歌に読み込むほどの生きがいを生み出したことに共感を覚えたのだ．余生を楽しむあり方に牧場現場がこんな形で取り込まれたことは，都市近郊畜産にとってとてもうれしいことです．

もちろんこの牧場は近隣の模範的存在であり，学校からの写生や視察を受け入れるまさに生きた標本で，その生産品の品質は高く評価されている．衛生管理も充分な都市型牧場である．牛に魅せられた老残さんの生きがいに共鳴する方もきっと多いことだろう．そこに近づく体力と知力を蓄えたいものだと考えた．

（柏）